

こんどこそ議会で働かせてください



日本共産党

ひたちなか市委員長

山形ゆみ子

日本共産党ひたちなか市委員会は、10月に行われる市議会議員選挙に山形ゆみ子市委員長を擁立し、議席回復をめざすことを発表しました。

みなさんの声を届けます

山形ゆみ子さんは、昨年の補欠選挙に立候補、惜敗しました。それ以降、毎回定例議会を傍聴。毎月おこなっている「くらしの相談会」などに寄せられる市民のみなさんの悩みや困りごとを、ただちに市役所に出かけ交渉するなど「市民のくらし・福祉を守ることが一番の仕事」との思いで、がんばっています。

税金の使い方を

しっかりチェックします

アンケートには「税金の使い方をしっかり監視してほしい」との声が多数寄せられています。山形ゆみ子さんは「市民のくらしが一番」の立場で税金のムダ使いをチェックし、福祉・くらしを優先します。

必ず議会の様子を

お知らせします

山形ゆみ子さんは、議会ごとに「民主ひたちなか」などのニュースを発行し、議会の様子が市民のみなさんによくわかるように報告します。また、地域での「議会報告会」や、街頭からも宣伝カーなどで市政の様子をお知らせします。

みなさんと力あわせ 実現をめざします

- 小学校卒業までの医療費無料化と、保育行政・学童保育を充実させて、子育て支援を推進
- 教育環境の整備、小中学校舎の耐震化工事・老朽校舎の改築
- 生活道路の整備と通学路の安全確保
- 保育所・学校給食・図書館の民営化をやめさせ、公民館など公共料金の値上げ中止
- 住民税の増税反対、市独自の減免制度の創設
- 国保税・介護保険料の引き下げ
- 高齢者・障害者が安心して暮らせるように、介護・施設利用などの支援制度の拡充
- パートや不安定雇用の改善と対策
- 利用しやすいコミュニティーバスに、またデマンド交通システム(電話予約型乗り合いタクシー)の調査検討
- 常陸那珂港のこれ以上の建設をやめさせ、税金のムダ使いをストップ



ごあいさつ

日頃、大変お世話になっています。

昨年の市議補選から1年がたちます。この間、日々の暮らしや身近な道路の問題など相談があいつぎ、市に届けてきました。

「住民税があがって暮らしていけない」「子どもがちゃんと働けずに結婚もできない」という声をたくさん聞きます。みなさんの声を真剣に受け止め、そうした声を市政の真ん中にした議論を、すすめるべき時期に来ているのではないかと、痛感しています。

大きな開発より、安心してくらしが一番大事です。わたしは、みなさんの声をしっかり市政に届け、だれもが、元気に明るく希望の持てるひたちなか市になるように、力を尽くす決意です。ご支援をよろしく願います。

プロフィール

1950年生まれ(57歳) 茨城大学工業短期大学部卒 社会福祉法人翠清福祉会勤務 高野小PTA副会長、いばらきコープ理事、いばらき保健福祉友の会事務局長など歴任
【資格】保育士、幼稚園教諭2種、ホームヘルパー2級
【趣味】山登り、卓球、押し花、読書
【家族】夫、子2人
【住所】ひたちなか市高野536-5 電話(285)3774



開発優先ではなく 市民のくらしが一番です！

日本共産党

山形ゆみ子

ひたちなか市の財政力指数は、県内44市町村のなかで10番目（平成19年3月発行「茨城県社会生活統計指標」より）です。しかし、福祉や教育分野が、他の自治体と比較して遅れています。今年度予算で2億6千万を支出する常陸那珂港開発、大企業誘致の優遇税制、勝田駅東口再開発など、将来の負担になるような過剰な投資を見直し、税金を市民の「くらし・福祉」のために使うことが求められています。開発優先でなく、市民のくらしが一番大事です。

税金を「くらし・福祉 優先に

市の公民館使用料がすべて有料となります（来年度4月から）。有料化されたら利用回数を減らすか、地域活動をやるしかないと言っている人もいます。公共施設利用は無料にしてほしい。

来年度4月から、後期高齢者および75歳以上の人の医療制度が変わるのをご存じですか。介護保険と同じく、年金から天引きで保険料が取られ、その額は平均月6200円です。

遅れている小中学校の耐震化工事。子どもたちが毎日生活する学校、そして災害時の住民避難場所になっている学校。早急に対策が求められます。

市民に税金の負担増をさせながら、保育所・学校給食・公民館・図書館など民間委託がすすめられています。いったい行政ってなんなの？という声が多くて聞いています。

市の乳がん健診はこの4月から、66歳以上は対象外となり、自費で病院で受けることになりました。こつた変更は近隣市町村ではおこなっていません。

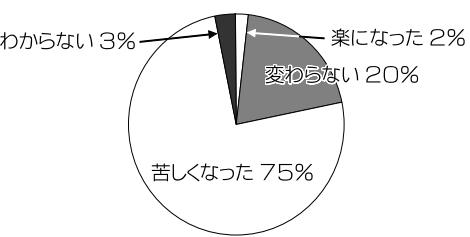
参院選の結果は、自民党・公明党に厳しい審判がくだされました。これは、定率減税廃止による住民税の増税、高齢者控除の廃止・公的年金控除の縮小による高齢者への増税など、徹底した国民いじめの政治がおこなわれ、その一方で、大企業・お金持ちへの数々の優遇税制。これでは「日本の未来がない」と国民が判断した結果なのではないでしょうか。貧困と格差をひろげる国の悪政のもとで、防波堤としての議会の役割りはますます重要になっています。

昨年に続いて住民税が大幅に引き上げられ、4700人を超える方が市役所に殺到しました。納税者の93%が影響を受け、今年度予算で、個人市民税の増税分は14億円にのぼります。介護保険料も上がり、くらしを圧迫しています。私たちがおこなった市民アンケート調査でも、75%の方が生活が苦しくなると答えています。その原因は、税金の引き上げ、年金の目減り、国保税・介護保険料の負担増が原因だとする方がほとんどでした。

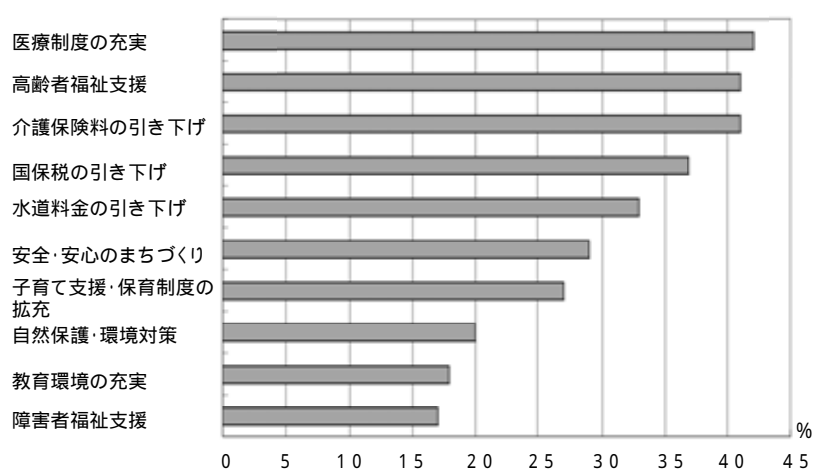
市民アンケートの中間報告

先に実施した、ひたちなか市民アンケートにご協力いただきありがとうございます。現在までに573通の回答が寄せられています。みなさんの怒りの声、ご意見・要求等たくさんお寄せいただきました。今後の活動に生かさせていただきます。

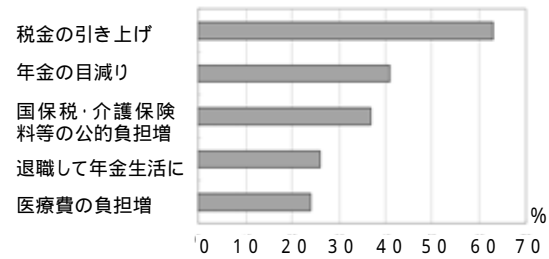
あなたの毎日の暮らしは以前と比べてどうですか



ひたちなか市政で、力を入れてほしいことは(複数回答)



苦しくなった原因はなんですか(複数回答)



大企業は空前の大儲けの一方で、住民税増税、保険料・公共料金的大幅な負担増で、市民のくらしが押しつぶされそうです。こんな時だからこそ、誰もが安心して住み続けられるまちづくりの施策が求められています。